

## 「セブン&アイ HLDGS. 企業の社会的責任報告書 2007」 に対する第三者のコメント

株式会社セブン&アイ・ホールディングス  
代表取締役社長 最高執行責任者 (COO)  
村田 紀敏 殿

2007年9月20日

株式会社あらたサステナビリティ認証機構  
代表取締役社長 山手 章

私たちの業務は「セブン&アイ HLDGS. 企業の社会的責任報告書 2007」（以下、「本報告書」という。）に記載された重要な社会面・環境面の取り組み及びその記載内容に関して、特徴、成果、改善点、今後の方向性等についてコメントすることを目的としています。コメントにあたって以下の手続を実施しています。

1. 村田紀敏代表取締役社長 最高執行責任者 (COO) へのインタビュー
2. セブン&アイ HLDGS. 及び5グループ会社の CSR 担当者へのインタビュー
3. 本報告書の最終原稿の閲覧

なお、本コメントは、本報告書に記載されている情報が会社の方針及び基準に従って収集、報告されているかどうかについて独立の立場から結論を表明するものではなく、また、その他の保証あるいは証明を行うものでもありません。

### 1. CSR 活動におけるシナジー効果の追求

CSR 推進委員会とその下部組織である5つの専門部会は、2006年度から本格的に活動を開始しました。2006年度の活動成果としては、各部会において、各グループ会社の CSR 活動状況に関する情報共有を行い、各社の課題を認識したことが挙げられます。また、各グループ会社は、課題解決に向けて、他のグループ会社のアドバイスの提供を受ける、先進事例を活用するなどして、各グループ会社の CSR 活動を一歩ずつ前進させています。

今後期待したいことは、CSR 活動におけるグループシナジーの追求です。本報告書では、「セブン&アイ HLDGS. お取引行動指針」の策定、食品廃棄物リサイクルの共同活用の方針などが報告されており、今後の取り組みの進展と合わせグループ会社間でシナジー効果を発揮することが期待されます。また、セブン&アイ HLDGS. は食品に関して大きな購買力を持っています。日本における食糧自給率の問題を勘案すると、現在グループ会社が個々に展開している地産地消や土壌改良の提案などの活動を発展させ、グループ全体のテーマとして農業振興を取り上げることは、大きなシナジー効果を期待できます。さらに、世界的な水産資源の枯渇の懸念を踏まえると、持続可能な漁業も今後シナジー効果が発揮できる課題であり、これらに積極的に取り組むことを期待します。

### 2. 各グループ会社の CSR 活動の整理と情報開示の工夫

本報告書は、グループ会社ごとに構成されており、各グループ会社の重要な CSR 課題を掲載するなど、個々のグループ会社の特徴的な CSR の取り組みを明確にしました。「加盟店への責任」（セブン-イレブン）、「鮮度チェックパトロール隊」（イトーヨーカドー）、取引先からの派遣を含む販売員のモチベーション向上策「スタークラブ」（ミレニアムリテイリング）、トレーサビリティの確保（ヨークベニマル）、健康に配慮したメニュー（セブン&アイ・フードシステム）等、昨年の報告書では記載されていない取り組みが報告されています。

一方、本報告書は限られたページ数でセブン&アイ HLDGS. 及び各グループ会社の CSR 活動をまとめるために記載内容を絞らざるを得ず、社会的な関心があり取り組みを継続している活動であっても必ずしも報告されていません。今後さらに情報開示を進展させるためには、各グループ会社の CSR 活動を課題・目標・当該年度の成果などをまとめた一覧表を作成する、ステークホルダーの関心事項を考慮して優先順位付けを行い報告書に掲載し、それ以外の取り組みはウェブ上での開示を徹底するなど、活動内容の整理と情報開示のさらなる工夫が望まれます。また、CSR 活動の内容を整理することは、各グループ会社の課題や方向性を明確にすることになります。こうした分析を活動の一層の深化に結びつけることを私たちは期待します。

### 3. 「ステークホルダー・エンゲージメント」の成果の共有化とグループ展開

セブン&アイ HLDGS. は現在、本業を通じた CSR の実践をめざし、各グループ会社がステークホルダーの声を把握して対応する「ステークホルダー・エンゲージメント」を日常業務の中で展開しています。さらに本報告書で報告しているように、グループ会社の経営トップが、それぞれの会社の重要な CSR の課題と今後の方向性について社外有識者と意見交換する新たなアプローチを採用しています。このように、セブン&アイ HLDGS. は、ステークホルダーの期待に応えるために、着実に活動を展開しています。

次のステップとして、各グループ会社が展開している「ステークホルダー・エンゲージメント」の成果をグループ全体の成果として共有していくことが望まれます。セブン&アイ HLDGS. が、現在把握しているグループ会社の「ステークホルダー・エンゲージメント」に関する取り組みを整理し、他のグループ会社で活用可能な情報を提供する、グループ全体としての対話の可能性を検討するなど、積極的な取り組みをすることを期待します。

## 第三者の意見を受けて

2005年9月のセブン&アイHLDGS.発足から、丸2年が経過しました。当社は、設立時から「CSR推進委員会」と「5つの専門部会」を組織し、ステークホルダーとの対話を通して浮かび上がった課題と、それに対する各事業会社の活動状況を検証・評価しながら、グループとしての方針の策定や今後の施策について議論を重ねてきました。

本2007年のCSRレポートにおきましては、多くのステークホルダーから寄せられた「グループ全体のマネジメント体制は整備されているのか」「グループの方針をどのように浸透させていくのか」というご指摘にお応えするため、これら専門部会の活動に関する報告を充実させています。

即ち「企業倫理・コンプライアンス部会」では「セブン&アイHLDGS.企業行動指針」を全従業員に浸透させるための教育の徹底、社内通報制度の適切な運用と全従業員への周知に努め、「FT(フェアトレード)部会」では、仕入れ担当者への教育の徹底と公正取引のチェック体制の確立・強化について討議しています。また、両部会ではサプライチェーン全体で法令遵守、環境保全、労働適正化などを進めるために、「セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針」の策定に取り組み、2007年度内の運用開始に向けて鋭意準備を進めています。

「環境マネジメント部会」では、関連する法改正にグループ全体で適正に対応していくため、「食品廃棄物分科会」「容器包装分科会」「物流分科会」を発足させました。また、「社会・文化活動部会」では、現状の社会貢献活動の意義及び本業との関連性等を検証し、本年6月に「セブン&アイHLDGS.社会・文化活動基本方針」を策定しました。「情報管理部会」では情報漏洩や不正アクセスを防ぐセキュリティ対策や内部統制への取り組みを磐石なものとするため、「セブン

&アイHLDGS.情報セキュリティポリシー」をもとに情報管理の規定・仕組み・ルールを見直しています。こうした各専門部会の活動状況をまとめていく過程で、改めてグループ全体の課題も鮮明になり、今後の施策をつくりあげていくうえで有効なヒントも得られました。

また、本報告書を作成するにあたっては、各事業会社が重視しているCSRについて整理・検証するとともに、それらの取り組みについて経営トップが社外の方々と対話し、客観的な評価やご意見をいただきました。皆様から頂戴した貴重なご意見・ご要望を今後の経営目標に反映させていくことも重要だと考えています。

経済のグローバル化や地球の温暖化、さらに国内における少子化高齢化、総人口の減少、食の安心・安全など、私たちを取り巻く環境は激しく変化し、これにともなって企業に対する社会からの要請もますます広く、ますます深くなっています。セブン&アイHLDGS.は、これからも、グループ価値の最大化に努めるとともに、社員一人ひとりが日々の業務を通して社会からの要請に誠実に応えることで、持続可能な社会形成の一端を担っていきたいと考えております。また、その進捗や成果をCSRレポートや年次報告書(アニュアルレポート)、WEBサイトを通じて積極的に発信してまいります。

皆様のこれまでのご支援に深く感謝申しあげるとともに、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

2007年9月  
(株)セブン&アイ・ホールディングス  
最高管理責任者(CAO)

後藤 克弘

## 編集後記

今回の「CSR Report 企業の社会的責任報告書2007」を編集するにあたって、私たちは大きく二つの目標を立てました。

一つは、グループ全体のCSRマネジメントの状況について検証・評価し、それを可能な限り報告すること、もう一つは、各事業会社が重視するCSRを鮮明にし、それを果たすために各社がどのような活動に取り組んでいるのか、現状の課題は何かを明らかにすること、でした。

これらの目標を達成するために、前者については、2006年度から本格的な活動を開始した「5つの専門部会」に焦点を当てた特集を組みました。後者については、事業会社別の章を設け、各章の冒頭で重視しているCSRを挙げるとともに、その取り組み課題について経営トップと社外のステークホルダー、有識者との対談を実施しました。

その結果、グループ全体でCSRを果たしていくための課題・目標、各事業会社にとっての重要なCSRが、これまで以上に鮮明になりました。

このような「ステークホルダー・エンゲージメント(Stakeholder Engagement)」を今後とも引き続き実践することにより、グループ全体でいっそう高い次元でのCSRを果たしていけるよう努めてまいります。

読者の皆様には、率直なご意見、ご感想をいただけますよう、お願い申しあげます。

(株)セブン&アイ・ホールディングス  
CSR推進委員会



株式会社 **セブン&アイ** HLDGS.

CSR推進委員会

〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8

TEL.03-6238-2448

<http://www.7andi.com/>



このマークは、トライボッド・デザイン独自のユニバーサルデザイン達成度評価法PPPにより、色覚の適性や図形の判別性などUD評価達成度を保証するものです。



VOC  
FREE T&K



本報告書は、環境に配慮したFSC認証紙を使用し、植物油100%のインキを使って、「水なし印刷」で印刷しています。

